

[博士論文審査要旨]

申請者：中村 周史

論文題目 小国開放経済におけるマクロ経済政策：動学的一般均衡モデルによる為替・金融・財政政策分析

審査員 小川 英治

三隅 隆司

佐藤 隆文

本論文は、動学的確率的一般均衡（DSGE）モデルを用いて新興国の直面する国際金融に関する諸問題（為替レートのパス・スルーの不完全性、国際貿易や資金調達における通貨ミスマッチによる為替リスクなど）とマクロ経済政策（為替政策と金融政策と財政政策）の関係について分析を行ったものである。そこでは、まず実証研究の結果を概観することで、新興国が直面する問題について整理しており、以降の章ではこれを背景として、為替レートのパス・スルーの不完全性と為替政策の関係、資金調達における通貨ミスマッチ問題と為替政策及び金融政策の関係、開放経済における政府支出と消費、実質為替レートとの関係についての理論的な分析を行っている。

本論文では、いくつかの興味深い分析結果を得ている。なかでも、国際貿易や資金調達における通貨ミスマッチによる為替リスクについては、新興国が外貨建てによる国際貿易取引や国際金融取引をせざるを得ない状況で、通貨ミスマッチによる為替リスクは貿易と資金調達にネガティブな影響を及ぼすが、とりわけ後者への影響が大きいことを明らかにしている。そのため、国際貿易面より国際金融面の安定化を目的とした為替政策がより望ましいと結論付けている。さらに、通貨ミスマッチによるバランスシート効果について、交易条件悪化によって発生する負債増大によるバランスシート効果の他に、生産縮小・資本報酬縮小・資産価格低下による資産サイドに注目したバランスシート効果も合わせて、考察している点が貢献として評価できる。

一方、本論文には残された課題がある。本論文では、DSGE モデルを利用して分析しているものの、GDP などの安定化に分析が留まり、厚生分析にまでは至っていない。今後は、厚生分析にまで考察を拡張することが必要であろう。次に、本論文は、DSGE モデルにおいて数値計算シミュレーションが行われているものの、理論分析の域を留まっている。今後、理論分析から導き出された結果について、実証分析による検証が必要であろう。

以上のような課題を残すものの、本論文は査読付き学術雑誌に掲載されている論文を複数含んでいて、総合的に学位授与に足りる水準に達していると認められる。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。